図書室だより

館林市立第一小学校図書館
2023年9月号

どくしょつうちょうにきろくをしよう

どくしょつうちょうとは、「自分のかりた本のなまえやひづけをかいていくためのもの」です。
（群馬県立図書館ホームページより）

読書をきろくすると，自分がどんな本を読んだのかをふり返ったり、次にどんな本をかりてみようか考える参考になります。

つうちょうがいっぱいになったら（30番まで記入できたら）、しおりをプレゼントします。

どくしょつうちょうの書き方

1. さいしょに　本を読み終わった日をかいてね。
2. つぎに　読んだ本と書いた人の名前を書こう。
3. さいごに　気に入ったかずだけ　ほし☆をぬろう。
4. 読んでかんじたことをメモしておくといいですね。

館長のおはなし

このコーナーでは、館長のおはなし「読書で身につく7つの力」を紹介します。
本をよむとどんないいことがあるかな？

第4回　【想像力が豊かになる】

本を読むときは、文章から風景や登場人物の気持ちを想像しなければなりません。絵と絵の間の場面や登場人物の声、音などはイメージする必要があります。読書は頭の中でいろいろなことを思い描くため、自然と想像力が豊かになります。

スーパーマーケットの**とりせん**さんより「館林市の子どもがたくさんの本に触れて、郷土思いの大人に育つことを期待している」（上毛新聞より）と図書カードが寄贈されました。そこで、**館林市立図書館のかた**に“館林にゆかりのあるおすすめの本”をたくさん教えていただきました。その中から購入した本をしょうかいします。

○館林藩士岡谷繁実がまとめた戦国武将や大名たちの人物列伝『まんが名将言行録』
○館林出身の宇宙飛行士　向井千秋さんのお話も読める『これがわたしの生きる道！』
○里沼や田中正造などについて書かれている橋本淳司さんの『水辺のワンダー』
○アニメ「宇宙（そら）よりも遠い場所」（通称よりもい）の聖地としての館林がしょうかいされている『アニメツーリズム白書2023年版』

ほかに、**『絵本　上毛かるた』『いいな　じぶん！』『はだしのゲン』『おうさまのまえで　みぎむけーみぎ！』**も購入しました。
ぜひ、読んでみてください。

『おつきみ』　（あまんきみこ・さく）

えっちゃんとねこのミュウがのった　はこでんしゃはごとごととうごきだし、へやをいっかいまわって　まどからとびだしました。
ごとごとごと…。さて、どこまでいってしまうのでしょう。おつきみの日のできごとです。

『宇宙はよぶ』　（まど・みちお　さく）

まどさんの詩の本シリーズの一さつです。

いちばんぼし
いちばんぼしが　でた
うちゅうの
めのようだ
ああ
うちゅうが
ぼくを　みている

タイトルに「月・宇宙」が入っている本

『宇宙人っているの？』（長沼毅・作）

太陽系以外に「地球のような惑星」があるとわかってきた　21世紀の今。「いろいろな天体（ほし）にいるかもしれない、いろいろな生きもの」についてできるだけ科学的に考えて、わかりやすく説明している本です。

『月のひみつシリーズ』（藤井旭・監修）

毎日の変わり続ける月のようすがわかる『月のかたち』月のかたちが変わるしくみがわかる『月のみちかけ』月が出てからしずむまでの動きがわかる『月の出と月の入り』があります。
いちにちの月の動き、きのうとちがうかたちの月など空を見上げて見てみよう。

図書室の本をしょうかいします。よんでみてね！